

# 北海道大会及び支部大会における 2022 年度版 「新型コロナウイルス感染予防対策」マニュアル

2022 年4月1日現在

2022 年度の北海道大会及び支部大会を開催するにあたり、2020 年度及び 2021 年度に引き続き、「新型コロナウイルス感染症」対策を講じる上で、次のことに充分留意することが必要となりますので、監督・選手はもとより、大会役員等関係者全員に周知の徹底をお願いします。特に、大会運営にあたっては、従来の慣例などにあまり捕らわれずに、特段試合等に支障がない場合は、「感染予防対策」を最優先とし、大会役員やチームなど関係者が協力しながら、あらゆる場面を想定して対策を講じるように努めて下さい。

**留意点** 大会開催にあたっては、以下の点に留意して下さい。

## 【北海道大会】

1. 監督・主将会議及び開会式の開催を省略するなど、可能な限り大会の簡素化に努めること。また、場合によっては、試合回数や大会期間の短縮など、感染リスクを減らすことにも充分配慮すること。
2. チームの参加にあたっては、日帰り日程を推奨し、宿泊する場合は、できるだけ大部屋は避け個室にするなど、「密」を避けるようにすること。なお、日帰りの場合、これまでと同様に「交通安全」には充分気をつけること。
3. 参加する各チームには、試合当日の全員の検温とチェックシート(発熱や倦怠感・咳・咽頭痛等)の提出を義務付けるなど、選手の体調管理を徹底するよう指導すること。  
(体調不良の選手の参加は認めない。)また、大会関係者(審判員や運営スタッフ等)も同様に体調管理を徹底すること。  
選手及びチーム関係者は、大会実施の 14 日前の行動記録を必ず記入するなど、感染予防に関する自己管理を徹底し、必要ある時には大会本部へ提示又は提出すること。【健康チェックシートの活用】なお、保健所から濃厚接触者認定を受け、自宅等待機指示期間に大会参加することは認められません。
4. 各会場には消毒液を配置し、適宜手洗いができる場を確保し、会場に入る際や試合開始前、試合中の攻守交替時及び試合終了後の手洗いの励行などによる手指消毒を行い、適切な感染予防対策を講じること。また、試合毎にベンチ内の消毒を励行するなど衛生管理を徹底すること。
5. 選手、チーム関係者、役員、審判員は、球場に入る際、必ずマスクを着用すること。  
また、試合前のオーダー交換時及び大会運営側や審判団からの注意事項を伝える

時は、各々マスクを必ず着用すること。

6. 試合中のベンチ内では、「**マスク**」を**着用し**、選手同士一定間隔の距離を保ち、近接での会話や大声での声援を避けるなど、飛沫感染等を防ぐための対策を講じること。  
ただし、マスクの着用にあたっては、「熱中症予防」にも配慮すること。なお、マスクを外して活動する場合は、十分に周囲の人との距離(概ね2M以上)を空けること。
7. 試合中、全選手が密集・密接する円陣や声だしは控え、オーダー交換時の握手等も禁止すること。また、試合前や終了後の整列についても、監督又はキャプテンに限定することやベンチ前での整列に止め、できるだけ選手が密集することがないように配慮すること。
8. 会場への入・退場する際、時間差を設けるなどの動線についても工夫すること。
9. 応援者については、マスク着用の他、観客席が密にならないように一定距離を保って観戦するようにチームを通して周知したり、掲示物や場内放送などで注意喚起すること
10. 感染者が発生した場合には、速やかに大会を中止し、参加者や関係者への連絡や指示の徹底を図ること。(公的機関に連絡がとれる体制の確保をすること。)  
また、参加者名簿を関係機関に公表する場合があることを周知すること。
11. 個人情報の取扱いに十分注意し、書面の保存期間は最低1ヵ月以上の保存をすること。

## 【支部大会】

1. 実施の可否は、基本的には支部の裁量で判断して下さい。
2. 開催する場合は、前記「北海道大会」に準じた防止対策を講じて下さい。
3. 全道大会には、推薦など他の方法で代表チームを選出することも「了」とします。
4. コロナ禍により代表チームを選出できず、北海道大会を欠場した場合は、昨年度同様に「特例措置」として次年度への出場停止などの「ペナルティー」は科しません。

※審判員より試合中の監督や選手などへ注意喚起(再掲)

1. ベンチ内では一定間隔を保つように努めること。
2. グラウンドに痰や唾を吐かないこと。
3. 選手同士のハイタッチやグータッチなどの行為を行わないこと。
4. 選手が密集・密接する円陣や声だし、整列などは控えること。(特に学童大会)
5. 試合開始時及び終了時の握手等は禁止すること。

※マスク着用のガイドライン(再掲)

1. 試合中、ベンチ内では全員マスクは着用するが、グラウンド内では、コーチャー・選手はマスクの着用は必要としない。
2. 大会本部役員及び運営スタッフ(放送員含む)並びに控審判員はマスクを着用する。

※ 必要用品(マスク・手指用消毒液や施設用消毒液・検温器等)は、主催者側で出来る限り用意する。

## 《 大会主催者が準備等すべき事項 》

1. 手洗い環境＜手洗いをこまめに行えるよう手洗い場所を確保し、以下のことに配慮すること。＞

- ① 手洗い場にポンプ型石鹸を用意すること。
- ② “手洗いは 30 秒以上をかけて”と“手洗いのしかた”などの掲示をすること。
- ③ 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル(使い捨て)を用意すること。なお、参加者にタオルを持参(マイタオル)していただくことを求める。
- ④ 手洗いが難しい場合には、アルコール等の手指消毒剤を用意すること。

2. 休憩、待機のための場所＜休憩、待機場所は感染リスクが比較的高いと考えられている。＞

- ① 他の参加者と密になることを避けること。
- ② 控室を活用する場合には、複数が触れると考えられる場所(ドアノブ、ロッカーの取手、椅子等)のこまめな消毒をすること。さらに、換気扇・換気用小窓による換気を十分に行うこと。

3. トイレ＜トイレは感染リスクが比較的高いと考えられている。＞

- ① 複数が触れると考えられる場所(ドアノブ、水洗式レバー等)のこまめな消毒をすること。
- ② 必ずトイレのフタを閉めて汚物を流すよう表示すること。
- ③ 手洗い場にはポンプ式石鹸を用意すること。
- ④ “手洗いは 30 秒以上をかけて”と“手洗いのしかた”などの掲示をすること。
- ⑤ 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル(使い捨て)を用意すること。なお、参加者にタオルを持参していただくことを求める。
- ⑥ 手洗いが難しい場合には、アルコール等の手指消毒剤を用意すること。

4. 観客の管理

観客同士が密な状態にならないよう、あらかじめ観客席の数を減らすなどの対応をとること。また、大声での発声・声援や会話を控えること。＜貼り紙や放送などで注意喚起を行うこと。＞

5. ゴミの廃棄

ゴミの分別回収を行うこと。特に、鼻水・唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛り廃棄すること。回収する人は、マスクや手袋を着用すること。マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒すること。

6. その他 各会場の事情等を考慮すると共に、会場管理者の取り決め事項等を遵守すること。

## 【参考資料】

- 1) JSBB 感染予防対策ガイドライン更新版(令和4年)
- 2) 日本スポーツ協会 スポーツイベント再開に向けた感染予防対策ガイドライン改訂版(概要)
- 3) 日本スポーツ協会 スポーツイベント開催・実施時の感染防止策チェックリスト改訂版
- 4) 全日本野球協会 新型コロナウイルス感染予防のためのガイドライン